

茨城大学工学部 令和4年度 工学部 FD 研修会報告書

令和4年12月7日

報告者 教育改善委員 永野隆敏

1. 実施日時

令和4年12月7日(水) 13時45分～15時00分

2. 場所

E1 棟 10 番教室 (対面実施)

※対面で参加できない場合には、領域長に許可を得た上で、Teams によるオンライン会議により参加

3. 参加者数 (対面参加者数/オンライン参加者数)

111 名/20 名(対面/オンライン)

機械システム (32/5) ; 電気電子システム (21/5) ; 物質 (17/3) ; 情報 (18/1) ; 都市 (11/4) ;  
工学基礎 (12/1), 情報戦略機構 (0/1)

事務職員 : 伊郷康隆, 清家佑華

4. 配布資料 (Teams の会議チャンネル内のフォルダから配布)

4-1. 20221207 茨城大学工学部 FD 研修会[53].pdf

4-2. 令和4年度茨城大学工学部 FD 研修会資料\_物質科学工学科\_福元.pdf

4-3. 推奨授業(鶴野).pdf

5. 議事次第 (司会 : 中島光一、永野隆敏 教育改善委員会 F D 担当)

13:45 ~ 13:50 開会の辞 教育改善委員長 宮嶋照行

13:50 ~ 14:20 令和3年度 前学期 推奨授業 高分子化学 II

物質科学工学科 教授 福元博基

14:20 ~ 14:50 令和3年度 後学期 推奨授業 パワーエレクトロニクス I

電気電子システム工学科 准教授 鶴野将年

14:50 ~ 14:55 令和4年度 推奨授業 表彰式

14:55 ~ 15:00 閉会の辞 工学部長 乾正知

6. 議事

令和3年度 前学期 推奨授業 物質科学工学科 教授 福元博基先生と電気電子システム工学科 准教授 鶴野将年先生の2名から、授業の概略に10分程度、具体的な授業の流れや創意工夫点に10分程度の報告があり、その後質疑応答が10分程度あった。  
報告後に以下の質疑応答があった。

(1)令和 3 年度 前学期 推奨授業 高分子化学 II

物質科学工学科 教授 福元博基先生

Q1：資料は印刷したものを配布したのでしょうか？

A1：学生に印刷させるか、学生自身にタブレット等で表示させている。

Q2：授業内容からすると高度であるが学生がついてきているか？

A2：学部学生に合わせて難易度を調整している。ただし、優秀な学生には物足りなさを感じさせている可能性はある。

Q3：評価の割合で、小テストと期末試験の割合で、学生からの意見が異なる。

A3：コツコツと学習する学生と一度に学習する学生など、学生によって異なると考えている。学生の質にもよるので、年度ごとに様子を見ながら割合を変更して可能がある。

Q4：自宅学習時間の向上について

A4：この授業については、授業開始直前に勉強している学生も多い。自宅学習時間を多くするためには、レポートを課す方法が効果ありと考える。しかし、小テストとレポートと両方課してしまうと、学生負担が大きくなるため、実施を考えていない。

(2) 令和 3 年度 後学期 推奨授業 パワーエレクトロニクス I

電気電子システム工学科 准教授 鶴野将年先生

Q1：反転授業の形式で実施されているが、配布資料は動画だけでしょうか？

A1：動画のみで実施

Q2：出席のついでにアンケートを毎回実施しているが、最終アンケートはどのように促しているか？

A2：毎回のアンケートに、最終アンケートに答えたか？という質問を入れることで意識させている。

Q3：定期試験を行わないポリシーはあるのか？

A3：記憶力勝負の試験ではなく、レポートでの実施が社会に出たの仕事に沿っていると考えてレポートでの成績評価を行っている。

Q4：繰り返し学習は 特に成績下位者に対して有効だと考えるが、成績分布との相関はどうか？

A4：成績分布と具体的な相関は取っていないが、確かに成績は向上している。

以上.